

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01826

研究課題名（和文）持続可能な社会づくりに向けたクラフトの企業家活動およびローカルな企業間協働

研究課題名（英文）Entrepreneurship and local cooperation in craft industry for sustainable society

研究代表者

大田 康博（Ota, Yasuhiro）

駒澤大学・経営学部・教授

研究者番号：90299321

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、クラフトへの世界的関心が高まる中で、持続可能なクラフトにおける企業家活動はどのようなものか、さらに、そうした企業家活動が効果的なものとなるにはどのようなローカルな企業間協働が必要か考察しようとしたものである。本研究では、テキスタイル産業を事例に、日本の中小生産者が持続可能性を向上させるための取り組みを分析し、環境・社会・経済の持続可能性のバランスを取ることができるよう、適切な顧客と効果的なコミュニケーションをしていることなどを明らかにした。また、ローカルな企業間協働については、現在成果を取りまとめている最中であり、次年度に学会で成果発表を行うことが決まっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

在来的な技術や旧式の近代技術を用いる日本の中小企業は、環境的・社会的な持続可能性の向上に貢献する可能性がありながらも、そうした問題を検討した研究は乏しかった。本研究は、まず、持続可能性への関心が強い海外のクラフト研究を踏まえ、日本の事例研究を行った点で先駆的なものといえる。また、個別企業の課題に関する発見事実を踏まえ、さらに地域レベルではどのような企業間協働が必要かという点についても示唆が得られた（現在取りまとめ中）。これらの成果は、在来的な技術や旧式の近代技術を用いる日本の中小企業の存続・発展や地方産業支援の有効性向上への貢献を通じ、持続可能性の向上に資すると考えている。

研究成果の概要（英文）：The study attempts to examine what entrepreneurial activities sustainable craft-based entrepreneurs are conducting and what kind of local inter-firm collaboration is needed to foster such entrepreneurial activities. I analyzed small and medium-sized Japanese textile producers struggles to improve their sustainability, including their effective communication with appropriate customers so that they can balance environmental, social, and economic sustainability. Regarding local inter-firm collaboration, I am preparing a conference paper on the results (the conference is held in 2024).

研究分野：中小企業論

キーワード：クラフト 中小企業 持続可能性 産地 テキスタイル産業

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

海外では、組織論などの研究分野においてクラフトへの関心が高まっていた。そこでは、技術の新旧よりもむしろ環境・社会・経済的な持続可能性への関心を背景に新しい仕事や組織のあり方を体現したものがクラフトとみなされていた。また、そうした仕事や組織は非製造業でもみられるという。

これに対して、日本では、古い技術を用いる伝統工業のようなものとしてクラフトがイメージされることが多い。海外の研究関心に基づけば、古い技術を用いる組織であっても、持続可能でなければクラフトとは言えない可能性がある。こうした理論的・実践的な国際ギャップの存在を鑑み、本研究では、海外のクラフト研究の成果との関連付けを意識して、日本のテキスタイル企業（特に比較的古い技術を用いる企業）を調査することとした。

持続可能性の向上は、環境・社会・経済のいずれの問題も解決しなければならない。それを実現するには、従来の経営方法を継続するだけでなく、企業家活動の実践が必要となる。クラフトの分野においてそれはどのようなものになるのかを本研究では明らかにしようとした。

個々の企業活動の内容や成果は、地域内での他企業との効果的な協働のあり方に大きく影響される。テキスタイル産業では、中小企業が多く、産地が全国各地に存在し、企業活動において関連企業との協働は極めて重要である。したがって、本研究では、クラフト的な中小企業が地域でどのような企業間協働を行っているのかにも関心を持っていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、クラフト分野における企業家活動およびローカルな企業間協調が持続可能性の向上にどのように貢献しうるかを明らかにすることで、社会の持続可能性の向上に資することにある。

3. 研究の方法

本研究では、いわゆる質的研究、特に文献、インタビュー、そして観察によるデータ収集を用い、テキスタイル企業や産地の個別事例研究を行った。環境・社会・経済のいずれにおいても持続可能な事業活動を行っている中小テキスタイル企業の事例は少数であり、事業活動の内容は極めて多様である。事業活動の内容の多様性は、クラフトの存在形態や可能性の多様性を示す可能性があり、安易な抽象化をすれば、事例から豊かな知見を得る機会を失いかねないと考えた。

4. 研究成果

天然染色工房「宝島染工」と久留米絣織元「下川織物」の企業家活動に関する事例研究および研究代表者による地域間コミュニティづくりの経験を振り返るアクションリサーチ的な論文が、現時点での主な成果である。

宝島染工では、使用する染料、生産技術などに工夫をこらし、従来の天然染色業よりも生産性を大幅に引き上げることに成功した。また、顧客との効果的なコミュニケーションを行うことで、アパレル企業からの受注を獲得し、収益性を安定させることができた。排水などに関しては、シンプルで独自の処理方法を導入し、環境負荷の低減を図っている。さらに、様々な雇用形態を導入し、家事・育児で多忙な女性にも天然染色業に関わる機会を提供している。

こうした持続可能な企業家活動の実践は、経営者が既存の伝統工芸の組織から自由であり、他方で、新たな時代にふさわしい雇用機会を提供する工房が発見できない状況から生まれたものであった。

下川織物は、70年以上前の織機を用い、久留米絣を開発・生産している。宝島染工の経営者とは違って、現在の経営者は3代目にあたり、伝統技術や家業を継承する者である。

下川織物では、問屋からの受注が減少する一方で、遠隔地に出張しても新たな顧客を開拓することができていなかった。あるセミナーに参加したことをきっかけに、SNS (Social Network Service) を活用した情報発信を開始し、従来とは異なる顧客を獲得することに成功した。そこでの取引には、問屋からの受注にはないメリットがあった。

この経営者は、旧技術を維持しつつも、新たな利害関係者（ここでは顧客）との関係を構築することで、経済的な持続可能性の向上に成功した。この事例は、旧技術を用いて存続・発展するには、単に古いものを維持するだけでなく、新たな組織的要素を加える必要があることを示唆している。組織論における「刷り込み」研究に貢献できる可能性があると考えている。

研究代表者は、2017年より「テキスタイル産地ネットワーク」というテキスタイル産業を中心とする関係者の地域間コミュニティを作り、発展させてきた。こうしたコミュニティは、各地域では解決できない問題を共有し、その解決に向けた仲間づくりを目指すものであり、実際に

様々な協力関係が生まれている。他方で、地域間コミュニティでは解決できない問題もあり、それにはローカルな企業間協働の再構築によってある程度対応できるものと考えられる。

このほか、2024年には、山梨や福岡のローカルな企業間協働に関する調査結果について学会報告を行うことが既に確定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大田康博	4. 巻 2023
2. 論文標題 地域を越えた実践者のコミュニティを創る -メンバーの学習と協働を刺激する「テキスタイル産地ネットワーク」-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中小企業研究センター年報 2023	6. 最初と最後の頁 16-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大田康博
2. 発表標題 旧技術ユーザーによる顧客関係の戦略的再構築：久留米絨織元下川織物における「刷り込み」プロセス
3. 学会等名 日本中小企業学会九州部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuhiro OTA
2. 発表標題 Sustainable entrepreneurship in the contemporary craft industry: New organizational practices at a Japanese natural dyeing studio
3. 学会等名 37th European Group for Organization Studies Colloquium（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------